冬の洞爺切り取る
写真家並河萬理の足跡を巡る

旧洞爺村の四季を写した並河萬理の足跡をたどり、地元の良さを見直す催しが、１月22日洞爺湖芸術館が主催して行われました。参加者は10人。

並河萬理氏は、シルクロードや文化遺産などを撮りつづけた世界的なカメラマンで、亡くなる前年の2005年「洞爺村幻想～その華麗なる大地」を出版しました。

今回は、昨年の夏に続き行われたもので、同氏の写真集から４枚をピックアップして、その撮影地点を巡りました。

各ポイントでは、並河氏に化した参加者らが、その写真を手がかりにアングルなどを探り、持参したカメラで冬の洞爺を切り取りました。

各ポイントで冬の洞爺を切り取る参加者

第３回洞爺湖町町民玉入れ交流大会（主催　洞爺湖町スポーツクラブ）が、１月31日あぶた体育館で開かれました。

一球一球に集中して玉を入れる子供ら

１チーム６人で、小学低学年、小学高学年、シニアの各部に総勢12チーム、75人が参加し、リーグ戦で戦いました。

ルールは、２㍍60（高学年・シニア＝３㍍）のバスケットに持ち球50球（シニア100球）をいかに早く入れるかを競うタイムレース。

最後のアンカーボールがなかなか入らず四苦八苦するなど、シンプルな競技に会場は大いに盛り上がりました。

玉入れ競技で熱い戦い
第３回町民玉入れ交流大会開催

虻田小学校（小沼和好校長）で、２月７日第51回全道漁協みな貯金運動「海の子作品展」図書カード贈呈式が行われました。同校は毎年５年生が、美術の授業に描いた虻田漁港の写生作品を、いぶり噴火湾漁港組合の依頼を受けて「海の子作品展」に出展してきました。

図書カードを受け取る大塚竜暉くん（右）

北海道信漁連では、51回を迎えた今年度を次の50年の第１歩として、浜の未来を担う子供たちを応援しようと海の子作品展に参加している全道の小学校113校に図書カードの贈呈を決定。

この日は、大塚竜暉児童会長（６年生）が代表で、いぶり噴火湾漁港協同組合参事の細川氏より24,000円分の図書カードを受け取りました。

虻田小学校
海の子作品展参加で図書カード贈呈される

道の駅あぷた来場５０万人突破
室蘭の岡田さんに地場産品の詰め合せプレゼント

道の駅あぷたが、１月31日営業開始から50万人目の来場者を迎えました。同あぷたは、平成17年10月から営業開始。平成20年12月11日に30万人を達成しました。

節目の来場者は、室蘭市から訪れた岡田芳美さん。開店以来買い物に来ていて、夏は月に２回以上、冬でも月１回は来店するというあぷたファンで、お目当ては、ウニとぐるぐる巻きソーセージ。

この日は、ご主人と買い物に来て50万人目に選ばれました。岡田さんは、「びっくりしました。これから何かいいことがありそうです」とほたて、ソーセージ、ヒメマスなどの詰め合わせをプレゼントされ、嬉しそうに語りました。

プレゼントを贈呈される
50万人目の岡田芳美さん（右）